

パンタナール通信

一般社団法人 南北米福地開発協会 会報 2021年4月1日 211号
世界平和地球村の建設と自然環境の保護



プエルト・カナンの牧場 2021年2月6日撮影



プエルト・カナンを管理しているビクトルさん(左端)とその家族と牧童たち。2月6日

プエルト・カナンは、日陽園の北部、パラグアイ川西岸にあります。かつてプエルト・ヌエボ(Puerto Nuevo)と呼ばれた場所ですが、希望ある福地を意味するプエルト・カナンに改名されました。プエルト・カナンには、環境保全に配慮した牧場を管理する基地が建設され、現在1000頭余の牛が放牧されています。

管理人のビクトルさんは、数年前までレダ基地の農場や植樹園で働いていました。皆様も覚えていらっしゃることでしょう。現在は夫妻で牧場に住み、牧場を切り盛りしています。夫妻の子供たちはトロパンバの小学校で学び、週末に両親のもとに帰つて一緒に過ごします。

レダ基地との間の移動や輸送は一般にボートで行います。所要時間はエンジンの馬力にもよりますが、川を上る場合、小型ボートで30分ほど。カナンの船着き場に到着すると、牧場のゲート(上の写真)があり、管理人家屋と牧童家屋、倉庫、トラクターや荷車の格納庫、整備場などが眼に入ります。食堂は屋根と食卓だけで、換気性は抜群。訪問者にも野趣豊かな食事が振舞われます。

電力はソーラーパネルと大容量の蓄電装置。これで冷凍・冷蔵庫、扇風機、LED照明器具など、低圧直流仕様の電器を使っていますが、作業用には小型の発電機も用いられます。商用電源の存在しない開拓地に住むことを考えている方には、かなり参考になることでしょう。

南米大陸において、牛の放牧は、伝統的に最も安定した産業の一つです。特に農耕に不適な土地の多いチャコ地方においては、着実に収益を見込むことのできる、ほとんどの唯一の産業として続っています。

プエルト・カナン牧場は、挑戦的なレダプロジェクトを支えています。

レダ基地スナップ



パラグアイ川から見たペルト・カナン。2月6日



西の空に、完璧な虹のアーチ。2月12日早朝



兄のパブロ・ジュニア君。



パブロ・ジュニア君が描いてくれた絵。



妹のルースちゃん。



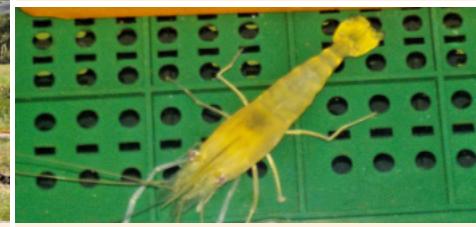
記念日のケーキカット。左より川久保君、滝川君、岩澤所長。2月24日



浄水場わきの水漏れ個所を修理。2月23日



第1農場の柱を修理する。2月18日



水槽の中の親エビ。3月8日



水落氏が8kg級のピンタード2匹とジャワーを苦闘の末に釣り上げる。3月7日



エビに飼料を与える川久保君。3月8日



日曜日の晩、従業員たちに講義するパブロさん。3月7日



川添陽奈(はるな)さんのデザインによる看板が立つ。2月24日

支援者の植樹に、癒しの水やり

● 豊村泰洋 (とよむら やすひろ) 氏は73歳、兵庫県西宮市出身。レダ基地においてシニアアボランティアとして長期にわたり、奉仕活動に献身してこられました。必ずしも強健とは言えない健康状態であるにもかかわらず、パンタナールの厳しい環境下で、休むことなく黙々と努力する姿は、現地のインディヘナ作業員たちにも好印象を与えて います。

去る3月初め、日本に一時帰国された豊村氏に、リモートで恒例の質問に答えて いただきました。



ニームのポット苗を作る豊村民。2020年6月29日

A portrait of a middle-aged man with dark hair, smiling. He is wearing a white t-shirt with the word 'OLIMA' printed on it. The background is an indoor setting with a window and some furniture.

Q 本の成長がとても旺盛になり、
雑草取りが仕事の大半を占め
るようになつてしまつました。
加えて、雨後に大発生する蚊
には、大変悩まされました。
…レダで最も嬉しかつたこ
とは何ですか？

A **Q** 農園と植樹園での水やり、ニーム、モリンガ
ポット苗作り、植樹、そして動物（七面鳥、ネコ
犬）の世話、エサやり、小屋の清掃などです。
.. レダで最も苦心したことは何ですか？
.. 雨季になると草木の成長がとても旺盛になります。
.. 雨季になると草木の成長がとても旺盛になります。

うな環境の下で働く現地作業員たちの、いつでも変わりなく働く姿時間通りに働き続け、働き終わる姿を見守る



犬の世話に来た豊村民。2019年1月27日



ゲストの歓迎会にて。2020年1月16日

A Q .. レダで特に印象的だったことは何ですか？
A Q .. 私はレダの伝統に感じるところが多くあります。その第一が、早朝の訓読会です。また一緒に働く現地作業員たちが、お金のためだけではなく、皆で一緒に働く事を通じ、仲間意識や家族的な喜びの世界を感じていることを知つて、嬉しく思いました。
A Q .. 将来の抱負をどうぞ。

族の人々が、私たちの兄弟姉妹のようになつていま
す。こうして多くの人が一つの家族に成つていくこ

界を感じていることを知つて、嬉しく思いました。
A ..私はレダの伝統に感じるところが多くあります。
た。その第一が、早朝の訓読会です。また一緒に働く現地作業員たちが、お金のためだけではなく、皆で一緒に働く事を通じ、仲間意識や家族的な喜びの世
界を感じていることを知つて、嬉しく思いました。



釣ったドラドを見せる。2020年6月7日



日本へ出発する豊村民。2021年2月16日

日 皆さまの木に
月 少しでも癒し
水 になるようにな
木 ます。

「師匠」の言葉で、木の根元に立つ高齢の男性が、手を組んで微笑んでいます。背景には「SOSIAS」と書かれた看板があります。

と思いながら、水やりをしております。

また青年奉仕隊としてレダや近隣コミュニティに行つてボランティア活動を実行するために送つてくださる後方支援の成果が、養殖、植樹以外にも現れていますが、これを地域社会から国のレベルに



「師匠の日」にプレゼントを受ける年配者たち。2019年5月18日

皆さまの木に少しだけ癒しになります。『師匠の日』に

隣コミュニティに植樹以外にも現れ、から国のレベルにまで広げていきたいと

思います。日本、パラグアイの兄弟姉妹、家庭の力を合わせ、提唱者である文先生ご夫妻の夢を、早くかなえてさし上げたいのです。その他、伝えきれないこともあります。豊村

豊村氏。2021年2月16日

とが、やがて
パラグアイの
国全体に及び、
良い国になつ
ていくようにな
る。思えてなりま
せん。

